

# CKD連携 紹介基準



CKD診療ガイド2024に準じて作成しております。  
慢性腎臓病(CKD)の紹介基準です。

## 当科からの診療情報提供書の例です。

### 原疾患名

- DKD    CKD
- 高血圧性腎硬化症    CKD
- 腎炎    CKD
- ADPKD    CKD
- その他 (            ) CKD

**CKDの治療目標：①末期腎不全への進展阻止 ②心血管疾患の発症予防 ③死亡リスクの軽減**

(引用：CKD診療ガイド 2024)

### 【治療方針】

- 家庭血圧を管理できるようにすること 目標血圧 sBP (            ) dBP (            )
- 食事療法：食塩の制限 (3 - 6g/日) をおこなうこと
- 血糖管理 (目標HgA1c 7%以下) をおこなうこと。
- 体重の管理： (            kg) を目標にダイエット     栄養状態の改善を優先
- 禁煙     1日 (            ) 本へ減煙
- その他: (            )

例 130/80以下  
血圧手帳・アプリの利用

例: BMI まず25以下へ

# 慢性腎臓病治療における当院の取り組み

慢性腎臓病 (Chronic Kidney Disease : CKD) とは糖尿病や高血圧などの生活習慣病や慢性腎炎、加齢などさまざまな原因で腎臓の機能が低下してしまった状態のことです。CKDという概念は、脳卒中や心筋梗塞を起こした患者さんには腎臓病を合併している人が非常に多いことから生まれたもので、放置していると脳卒中や心筋梗塞の発症率が高まることが分かっています。昨今では新たな治療薬も使用できるようになり、病態に応じたCKD治療目標に準じた治療法の選択、薬剤選択を行い、患者さんのQOLを確保する必要があります。定期検査を行い、適切な治療を継続することで、腎臓の働きを長持ちさせることが出来るようになってきているため、当院では以下基準にて薬剤の選択を行うようにしています。

## CKD診療ガイドを基にした薬剤選択の重要性



2024年改定版のCKD診療ガイドには以下の治療目標が掲げられました。

- ① 末期腎不全への進展抑制
- ② 心血管イベントの発症抑制
- ③ 死亡リスクの減少

上記目標を達成するために、治療の中心となる薬剤は適応症の有無やエビデンスの有無を考慮して以下の通り薬剤選択を行っています。

### 例として

- ◆ レニンアンジオテンシン系阻害薬：ロサルタン (ニューロタン)  
(高血圧及びタンパク尿を伴う2型糖尿病における糖尿病性腎症の適応、エビデンスを有する)
- ◆ SGLT2阻害薬：ダパグリフロジン10mg (フォシーガ)  
(慢性腎臓病の適応、CKD治療目標の3つ全てに対するエビデンスを有する \*糖尿病合併の有無を問わない)
- ◆ GLP-1受容体作動薬：セマグルチド (オゼンピック・経口:リベルサス)  
(2型糖尿病の適応、慢性腎臓病を有する2型糖尿病患者に対する腎機能低下抑制のエビデンスを有する)
- ◆ ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬：フィネレノン (ケレンディア)  
(2型糖尿病を合併する慢性腎臓病の適応と、腎機能低下抑制のエビデンスを有する)

## ・当科での薬剤選択の例です。

例：フォシーガ10mgを選択する理由

【理由】  
CKD診療ガイドを基に3つの治療目標に合致するエビデンスを有しているため

